

昭和十年四月

警備の姿

咸鏡北道警察

昭和十年四月

警備の姿

咸鏡北道警察部



咸鏡北道は朝鮮の最北端に位し白頭山より豆満江の流れに沿ひ滿洲國間島省安圖和龍、延吉、汪清、琿春縣を経て下流はソニエート縣邦清海州に接境し國境の延長約六百キロに達す

昭和十年四月

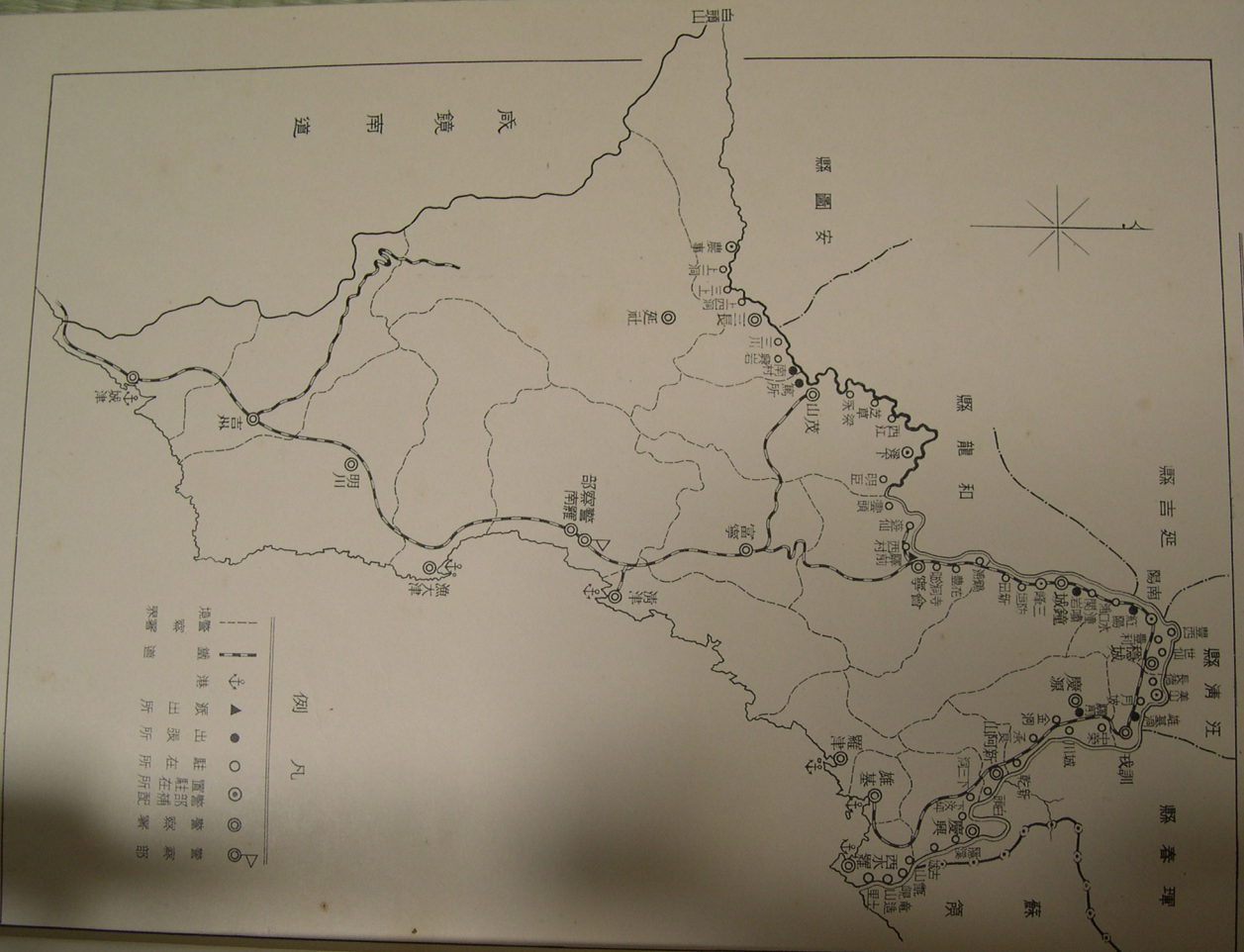
咸鏡北道警察部

[illegible]

次

[illegible][illegible][illegible]

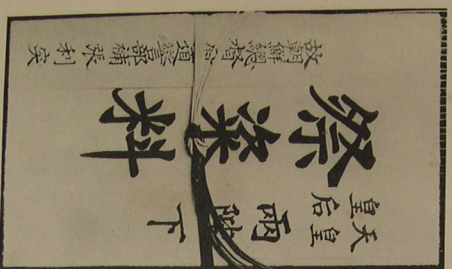
威鏡北道國境第一線警覺配置略圖



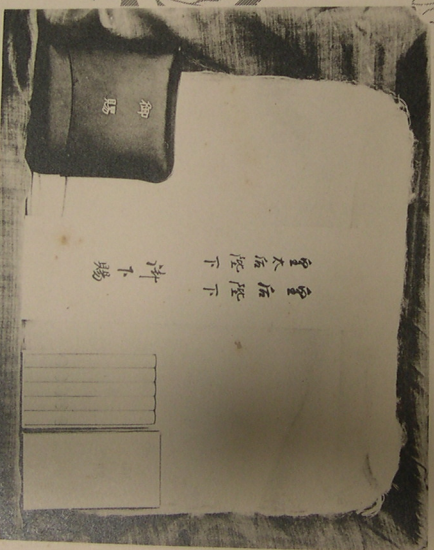
軍 國 英 朝



大連軍口官令符號



禮堂審判 禮堂審判



皇 后 陛 下



大連軍口官令符號



皇 后 陛 下



平
恩
無
窮

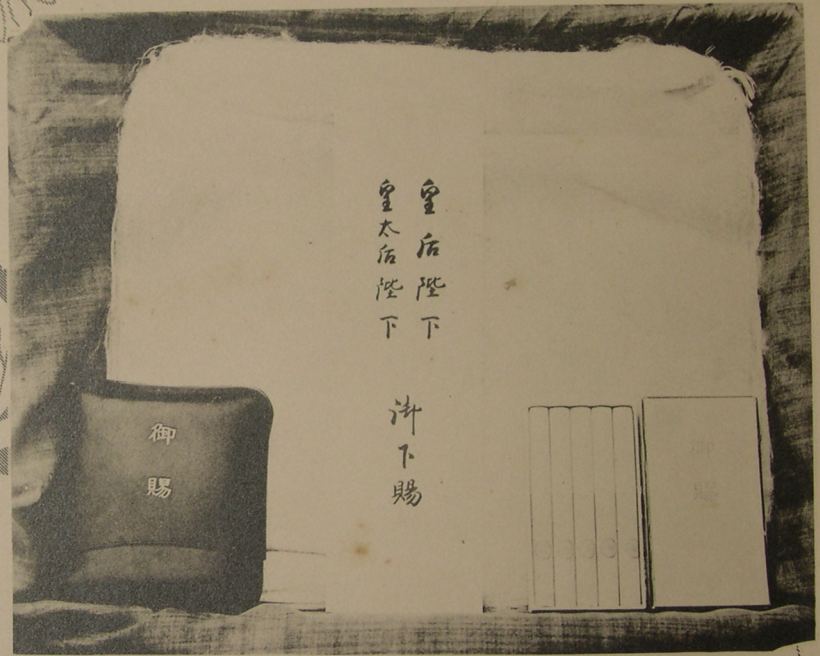
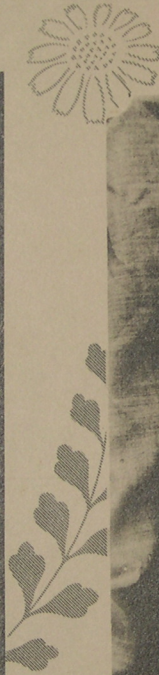


式達傳の旨令旨聖

式達傳の旨令旨蒙



料染祭るたり恩に宜敬啓謹均



品賜下御

補張利突

判案終るたり賜に官際野城城

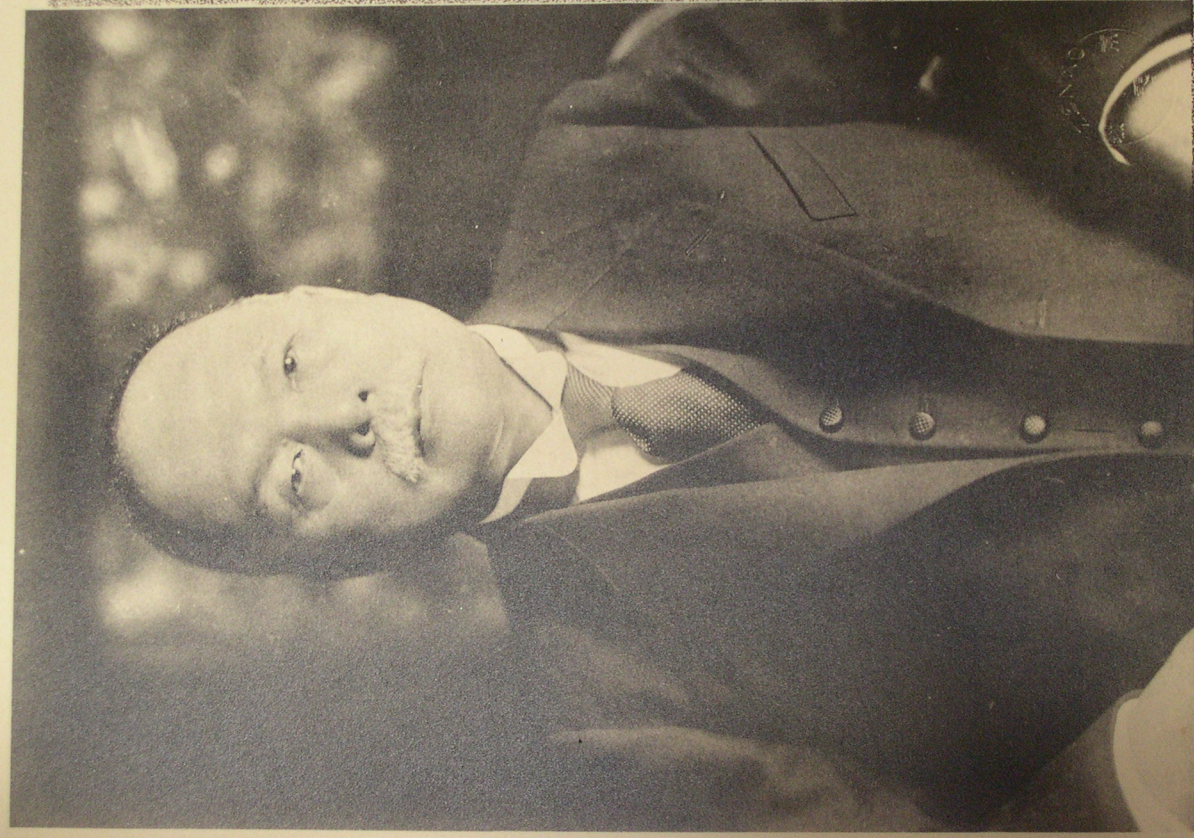
品賜下御



ふ向に長三りよ山茂行一使問慰御
(てに上氷江満登るけ於に近附長三)



使問慰御
官武從侍川岸



朝鮮總督 宇垣一成閣下

警務局長 池田清閣下



咸 鏡 北 道 廳



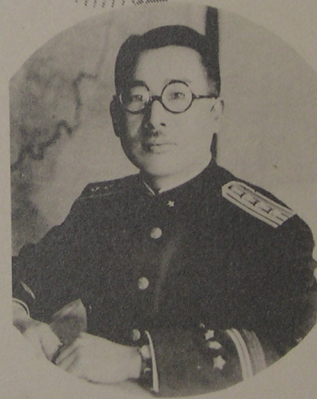
竹 內 知 事



富 永 前 知 事



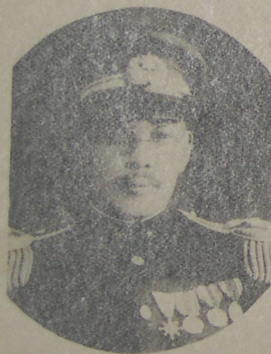
下 飯 坂 警 察 部 長



高 尾 前 警 察 部 長

長部察警坂假下

長部察警前尾高



長課察警等高澤黒



長課安 保田 正



長課生衛和長



長課務警岡松

長署察警線一第境國



長署警會利吉



長署山茂關今



長署長三村志



長署城窪川小



長署成調岡松



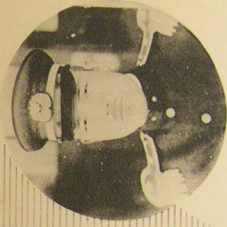
長署城鏡賀多



長署湖殿村澤



長署興慶村木



長署山岡新本藤



長署藤本西岡片

長署察警線一第境國



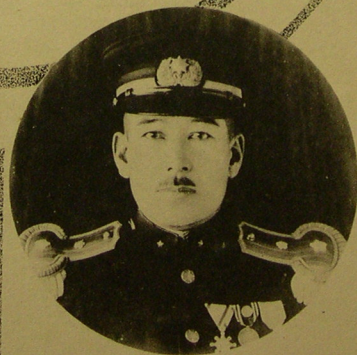
長署寧會利吉



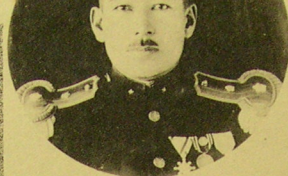
長署山茂關今



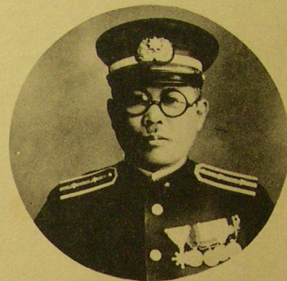
長署長三村志



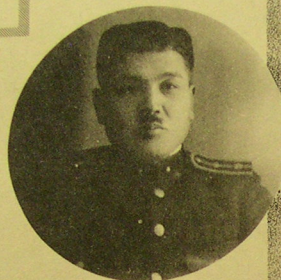
長 署 山



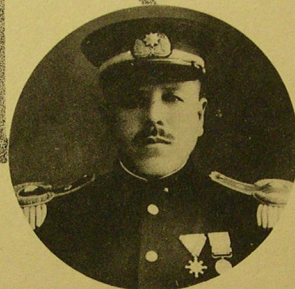
長 署 城 穩 川 小



長 署 城 鐘 賀 多



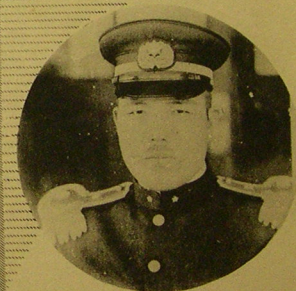
長 署 戎 調 岡 松



長 署 源 慶 村 澤



長 署 興 慶 村 木



長 署 山 阿 新 本 藤



長 署 羅 水 西 岡 片

道内警察署長



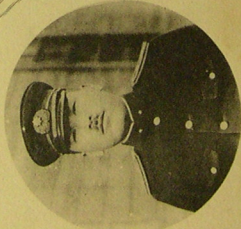
永田龍南署長



田中清津署長



植田津津署長



大瀬富警署長



中越雄基署長



坂口漁大津津署長



久竹明川警署長



岡田延社署長



小野吉州署長



丹下健津津署長

道内警察署長



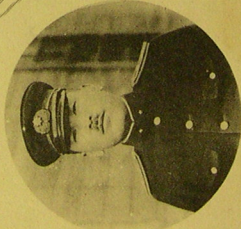
長 署南 藤田 永



長 署津 清 中 田



長 署津 藤田 植



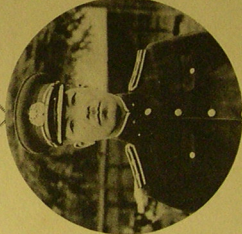
長 署警 富 瀬 大



長 署基 雄 越 中



長 署津 大 池 口 坂



長 署社 延 田 國



長 署川 明 竹 久



長 署津 城 下 丹



長 署州 吉 野 小

滿洲事變に伴ふ殉職警察官



故朝鮮總督府道巡查
巡查部長 大谷武夫君
昭和七年七月一日調役警察署美山駐在所
首席トシテ勤務中對岸ヨリ匪賊ノ襲撃ヲ
受クルヤ部下二名ヲ卒ヒ之ニ應戰追撃シ
豆滿江ヲ距ル五丁餘ノ地點ニ於テ二十餘
名ノ匪賊ト奮戦中途ニ賊彈ノ爲壯烈ナル
戦死ヲ遂ケ



故朝鮮總督府咸鏡北道警部補
張利突君
昭和九年三月十二日調役警察署長德江岸
監視所ニ於テ良民ヲ襲ヒ侵入セル匪賊ヲ
發見格闘中身に數彈ヲ受ケ重傷ヲ負ヒ遂
ニ職ニ殉ス

相 君
突 君
察署長徳江岸
人七ル匪賊ヲ
軍備ヲ負ヒ遂



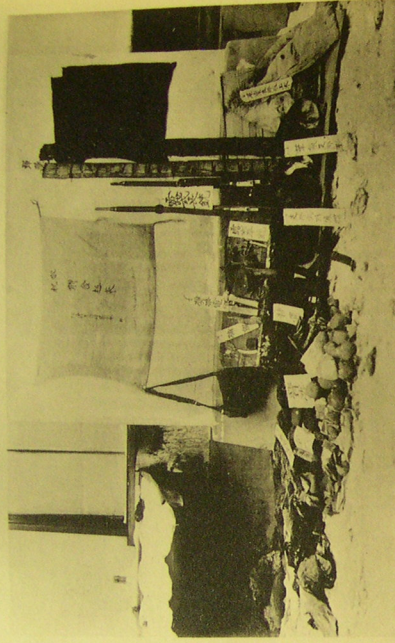
故朝鮮總督府威鏡北道巡查
巡查部長 森田政治 君
昭和八年九月十七日慶源警察署觀堂江岸
監視所ニ於テ警戒中數名ノ匪賊ヨリ狙撃
ヲ受ケ重傷ヲ負ヒタルモ屈セズ奮戦賊一
名ヲ喰シ遂ニ其ノ場ニ壯烈ナル戦死ヲ遂
ク

武 夫 君
察署長山莊在所
リ匪賊ノ襲撃ヲ
之ニ應戦追撃シ
點ニ於テ二十餘
彈ヲ食ヒ壯烈ナル



故朝鮮總督府威鏡北道巡查
巡查部長 金羽鉄 君
昭和八年九月十七日慶源警察署觀堂江岸
監視所ニ於テ警戒中數名ノ匪賊ヨリ狙撃
ヲ受ケ重傷ヲ負ヒタルモ屈セズ奮戦賊一
名ヲ喰シ遂ニ其ノ場ニ壯烈ナル戦死ヲ
遂ク

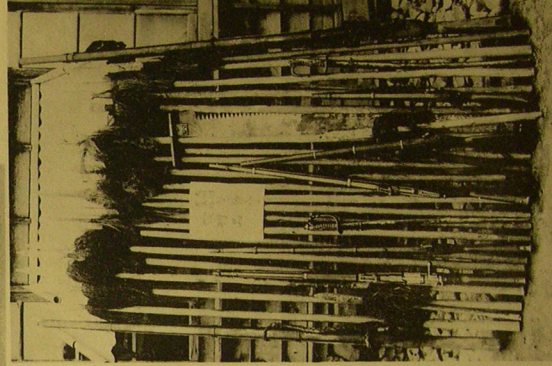
品獲鹵の伐討賊匪共兵



昭和九年一月十五日美山に於ける戦闘の
際、擧げた我軍の武器と戦用品



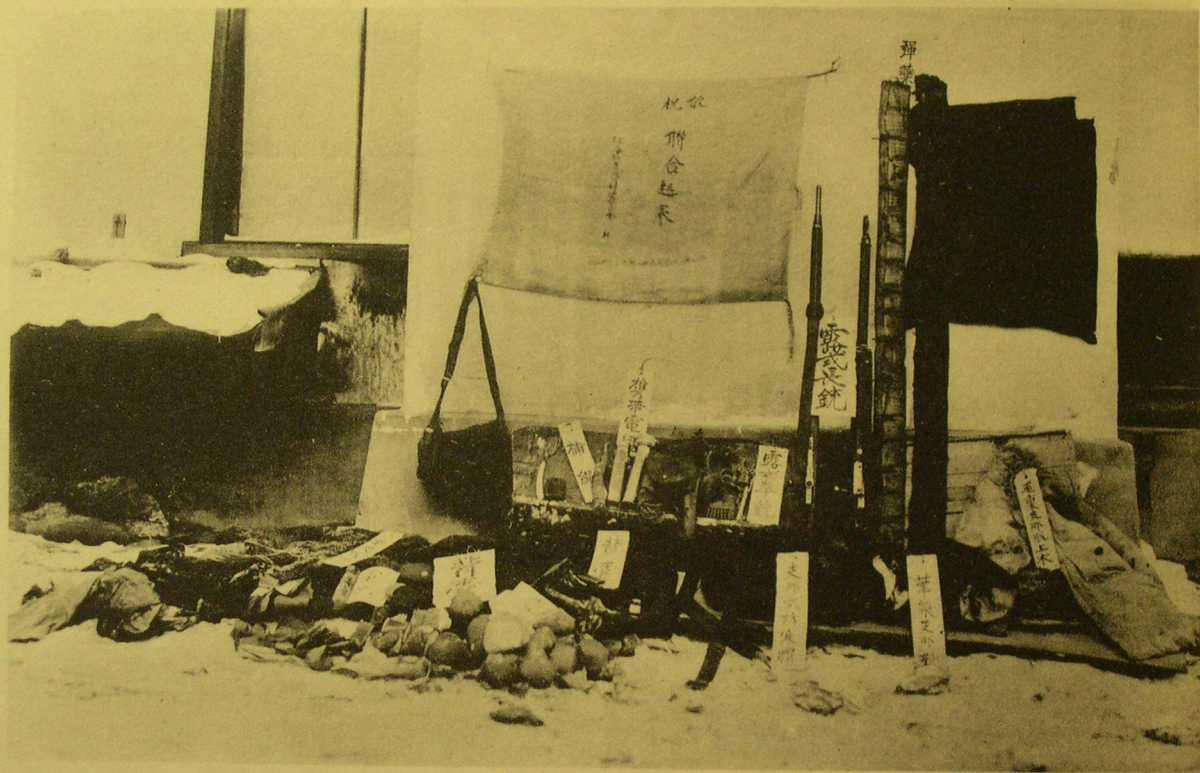
昭和七年七月九日茂山對岸南岸の戦國に
於て破壊した兵隊の武器と戦物品



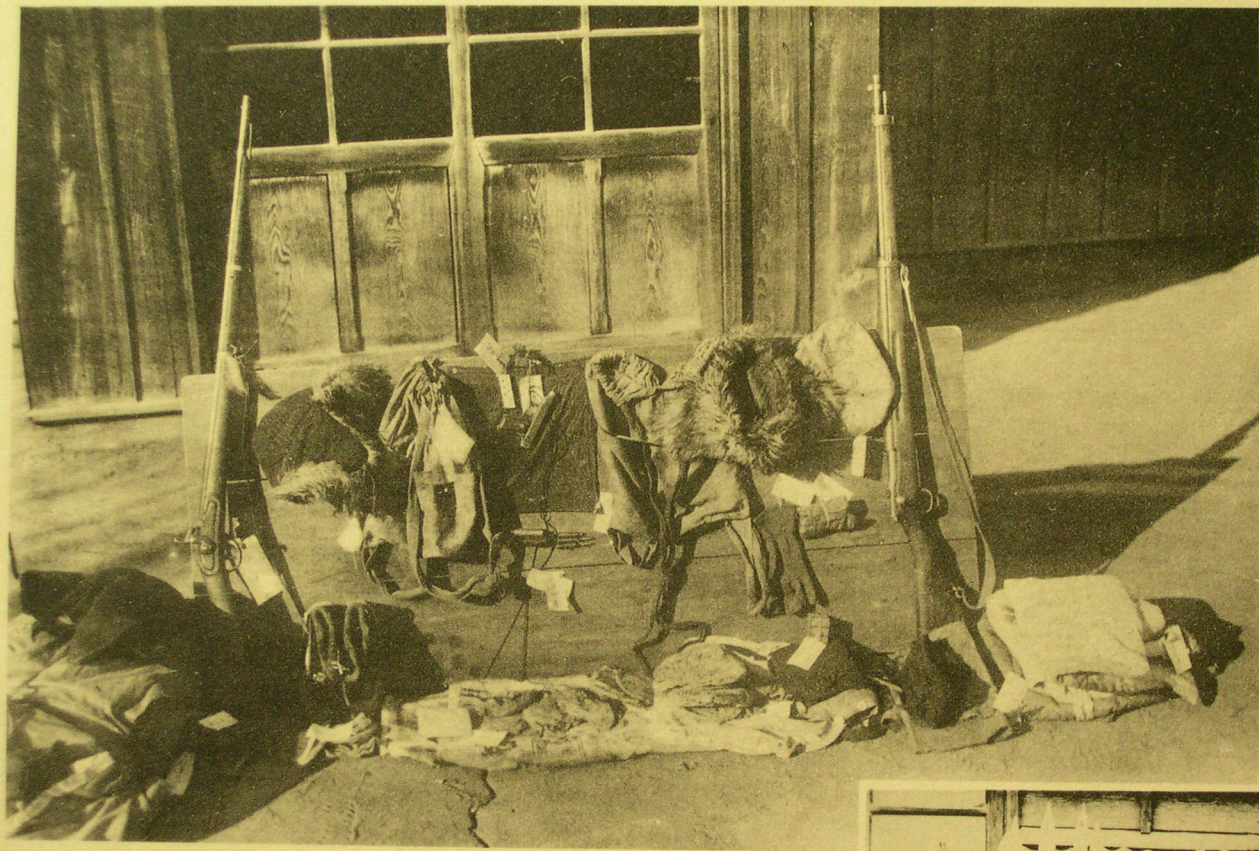
昭和七年六月二十六日三長對座に於ける
質問に於て函達した紅槍會員の武器

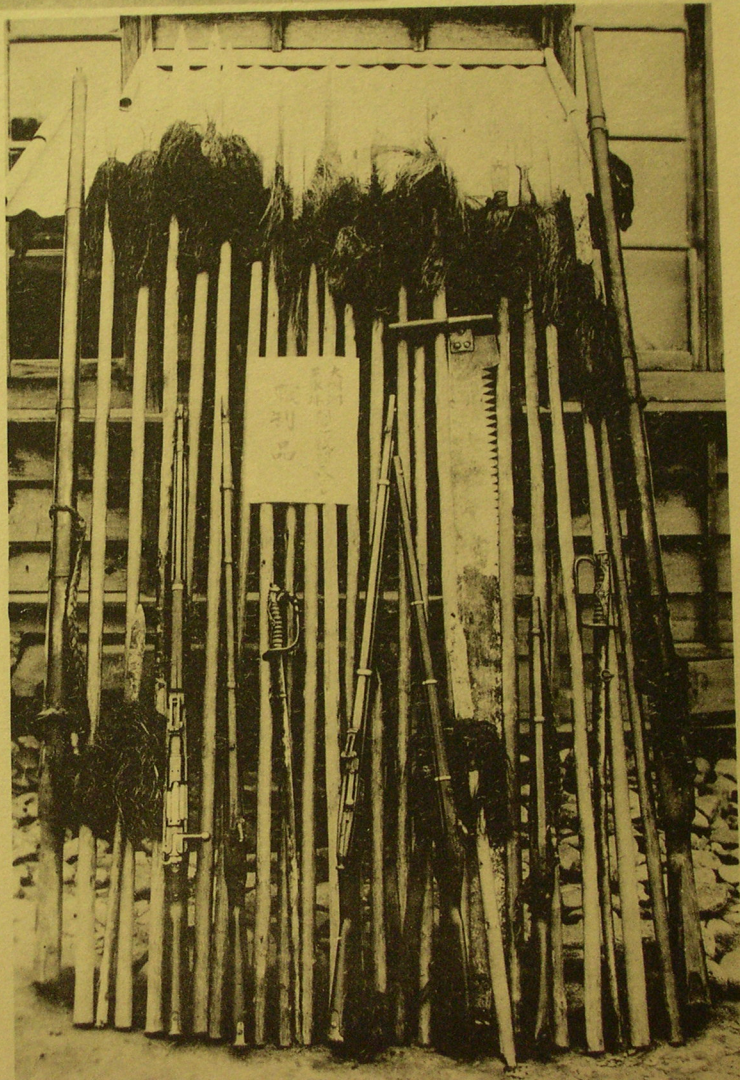
品 獲 鹵 の 伐 討 賊 匪 共 兵

昭和九年一月十五日美山に於ける戦闘の
際、鹵獲した共匪の武器と携帶品



昭和七年七月九日茂山對岸南坪の戦闘に
於て鹵獲した兵匪の武器と携帶品





昭和七年六月二十六日三長對岸に於ける
戦闘に於て鹵獲した紅槍會匪の武器

最奥區域たる白頭山景觀



日滿國境最高峰白頭山の天池



大清
康熙五十一年五月十五日
朝鮮軍官李義復趙台相
差使官許傑朴道常
通官金應德金慶門
烏喇總管穆克登奉
旨查邊至此審視西爲鴨綠東
爲上門故於分水嶺上勒
石爲記

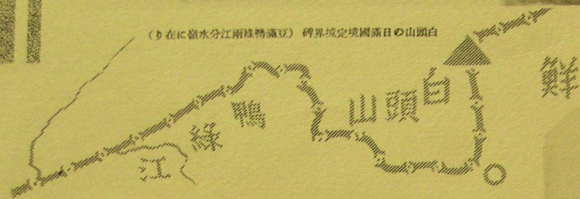
二尺三寸一分



(D 在に嶺水分江兩綠鴨滿豆) 碑界境定境國滿日の山頭白



(右に在る分水江兩縁特滿江) 碑界境定境國滿日の山頭白



蘆山鎮



← 碑界境 + 國三滿蘇日

國境特別警備隊の活躍



→ 國境特別警備隊結成式

昭和九年十二月二十日徒歩隊と騎馬隊を編成、冬の警備に活動を開始する。





↑
騎馬分隊の巡察

豆満江に沿ふ
國境線を馬蹄
の音も輕く

↓
日没を待つて行動
を起す徒歩分隊

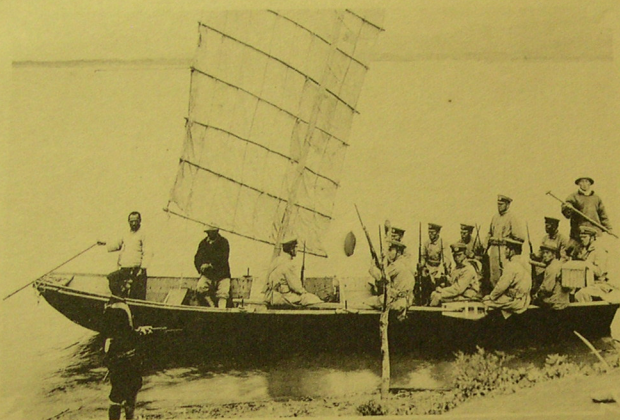


騎馬分隊員の氷上に於ける
容疑者検索

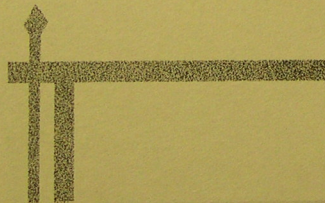
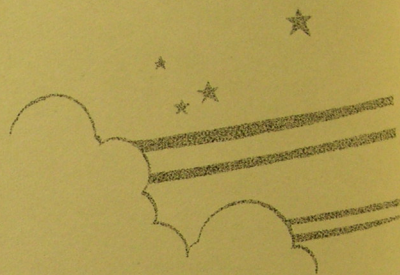


結氷した江上を行く騎馬分隊員

越境耕作保護警戒の状況



隊戒警よ向に地満爲の護保民農作耕越つ渡を江蘇夏



てつ登に地高し懸く高旗の丸の日
景光るよ旗に護保民農作耕





民農作群境越く田に野原と陸成登



てつ登に地成し越く高直の光の日
登光るふ直に陸成登の民農作群



民農作群境越るみてし出離く近岸江も物作耕たし獲秋



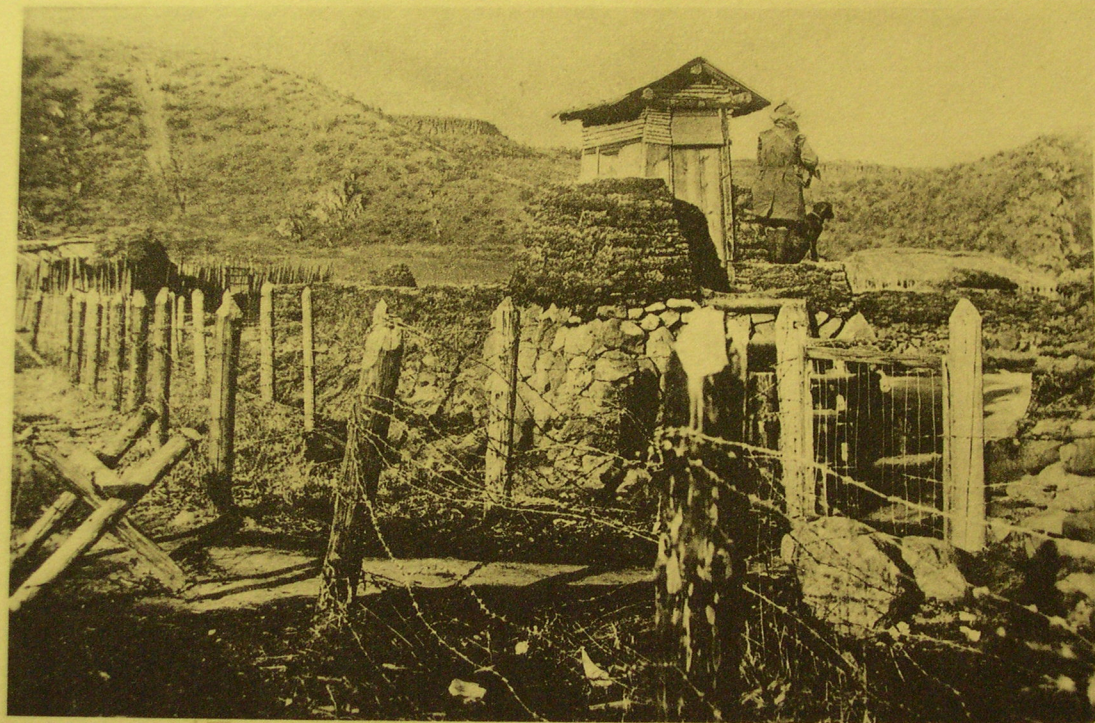
合集に海江駕るす入離に内野を秋獲収らかれ是+登



民農作耕境越るゐてし出搬く近岸江を物作耕たし獲收



國境第一線駐在所の防備
駐在所の周圍に構築した
鐵條網と望樓



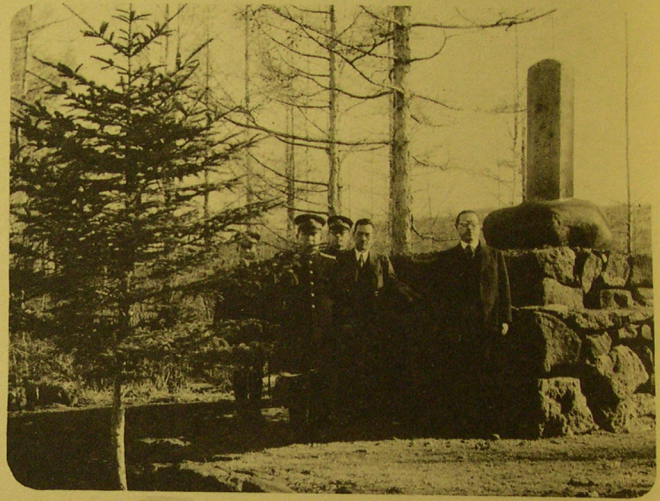
國境警察官の轉勤
駄馬に坊やと荷物を振り分けて



警察官家族の實彈射撃

妻も銃とり應戦の準備に
拳銃射撃の猛訓練





河田
合村
→
兩三番部長殉職之碑

大正十二年七月三日未明馬賊約百五十名農事駐在所を襲撃した際交戦殉職した河田、川合兩三番部長の記念碑

昭和十年二月廿七日
池田警務局長閣下並に下飯坂
警察部長一行参拜す

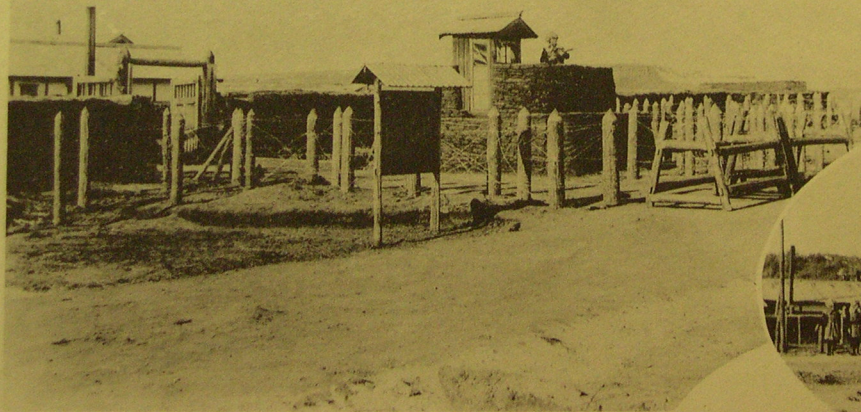


昭和十年二月廿七日
池田閣下國庫附問の警務
局長を中心として農事
員と其家族（前列右より
四人目池田閣下五人目
下飯坂部長）

昭和十年十一月十日
下飯坂警察部長並視察の
農部長を中心に農事警察官
駐在所員と其家族



農事駐在所
と職員の上
官迎送





上 洞窟在所員と其家裏
池田局長訪問の日(上)と下
段 警察署長と其家裏訪問の日(下)

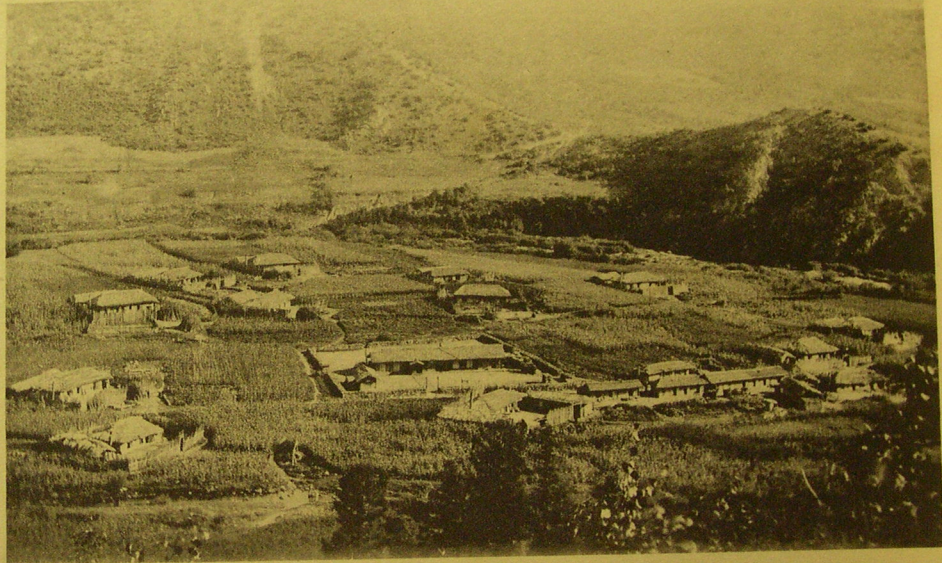


農事官署在所
に配備の
軽機銃隊射撃



上一洞駐在所と
附近の全景
↓

の江岸巡療



大正十五年七月十七
日上一洞對岸に於て
匪賊と奮戦中壯烈な
る戦死を遂げた三長
警察署長佐藤君
佐藤米三郎君



三上駐在所員と其家族
(市局反対門ノ口
×印局迄)



三上駐在所全寮と所員家族



上四河駐在所員と
其家族

側面より見たる
上四河駐在所

池田より見たる
上四洞駐在所



上四洞駐在所より自來
と池田の村長の家

上四洞より池田へ向ふ
三長特別の砲隊分隊

三長より遊軍に
向ひ出發せんと
する下城警察
部長
(三長署前にて)



↑
三長署管内駒警務官の
前に參拜する池田局長閣
下(左ヨリ二人目)



三長江岸監視所より豆満江
を経て河津藩領土城部落を
望む
←





三長岡江新田の
水上通の地間



三長特別警備隊員



→
池田警務局長閣下
慰問の日の三長署
員と其家族

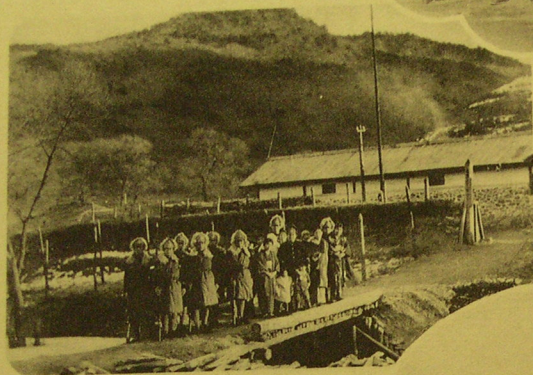


←
三長町全景前の川は
西頭水右の細く見
ゆるは豆満江本流其
の對岸は土城部落



三川駐在所★員と其家族

と市家族



←
三川駐在所の一郎と
職員及家族



三川駐在所全景

興岩駐在所・員と
其家族
池田閣下（左より
三入目）
村間の日



興岩駐在所★
員と其家族



興岩



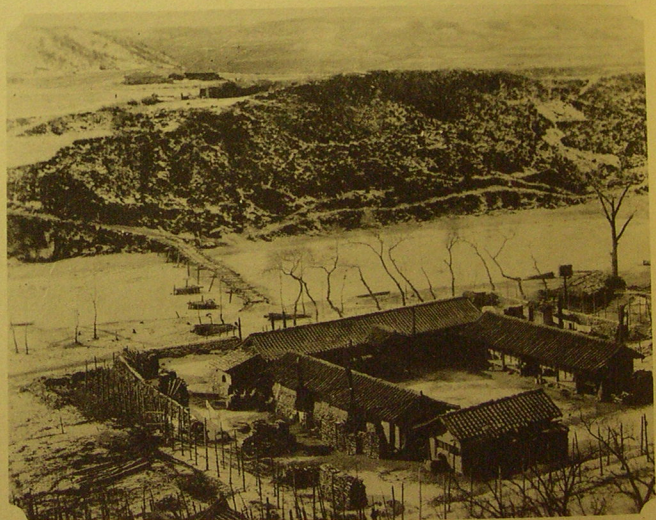
國治駐在所の江岸監視所



1
國治駐
在所全
量、前
の川は
豆満江
の支流
延岡水



豆満江の岸





↑
篤所駐在所に到着した池田
警務局長と其の出迎



越境耕作者保護警戒の爲に越境する茂山警察隊

一 (上) 族家の共と員署るけに署山茂時の間田閣下開田池
(下) 員署るけに際の際の視巡長部警警坂飯下



務警田池 たし印に山茂を歩一第の線境國北成
時一后午日六廿月二年十和昭 行一下閣長局
下開田池目人二りよ右(帳下に筑群山茂分十二





景全面正署察警山茂



む壁を岸對て船を江談豆りよ所親恩豪馬融



問慰族家の員署山茂の下開田池



員署分察警館事領坪南と長部察警現敷下



む堡を坪南て郷を江滿豆りよ近附所設置坪南



む登を坪南で都を江満立りよ田附所説坪南



品獲山と隊察警山茂るたし炭焼りよ伏討賊匪



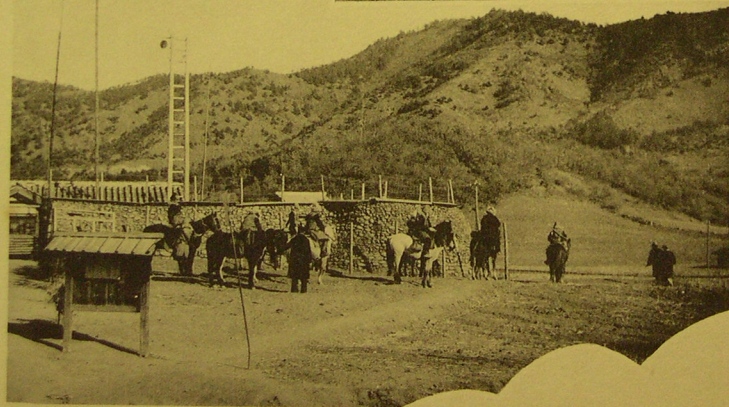
行一長部察警ふ向に坪南りよ山茂



る渡を江満豆島の新教坪南隊察警山茂



員團營自に並族家の共と員所在駐永樂



面正所在駐永樂



圖正所在駐水樂



堡遠の所在駐水樂



行一の長部騎警るす進前を上米の近附所在駐草芝



牧家の其と員所在駐草芝



族家の其と員所在駐江西

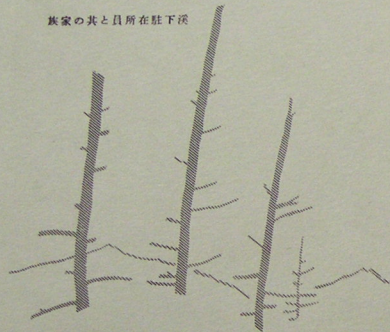


所在駐江西

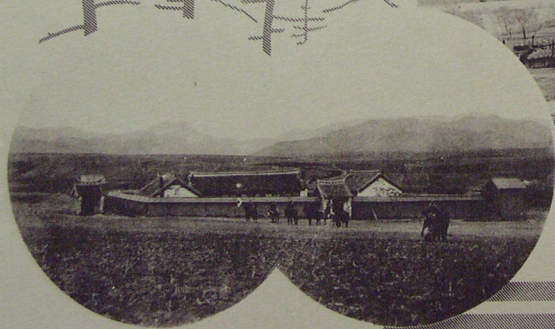




其の家と員所在駐下溪



景金の所在駐下溪



令兵那支の代時良學張るゐに岸對江西



族家其と員所在駐區明

(所在駐區明端左) 景全洞似明





行一校駐劄營帳敷するす進行を上光江漢豆記附郭説明

族家其と員所在駐頭雲



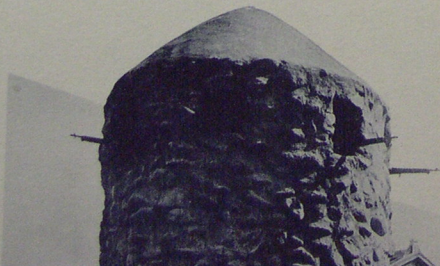
豫備營別特の中整備を近附跡城國五



五國城景頂上の偉観



五國城跡に雲霧の神





観音の上頂景城國五



神の瀨雲る境に郡城國五



樺望の所在駐仙遊



景全所在駐仙遊





民家其と員・所在監官慰勞村西



躍活の隊歩徒隊備警別特零會





(土富島間は面正央中) 警備備中雪の具署警事會



迎出長部警署のけ於に前署事會



迎出長局務警の熟家及員署るけ於に前聯事會

池田輕鐵局長と會客警察署員

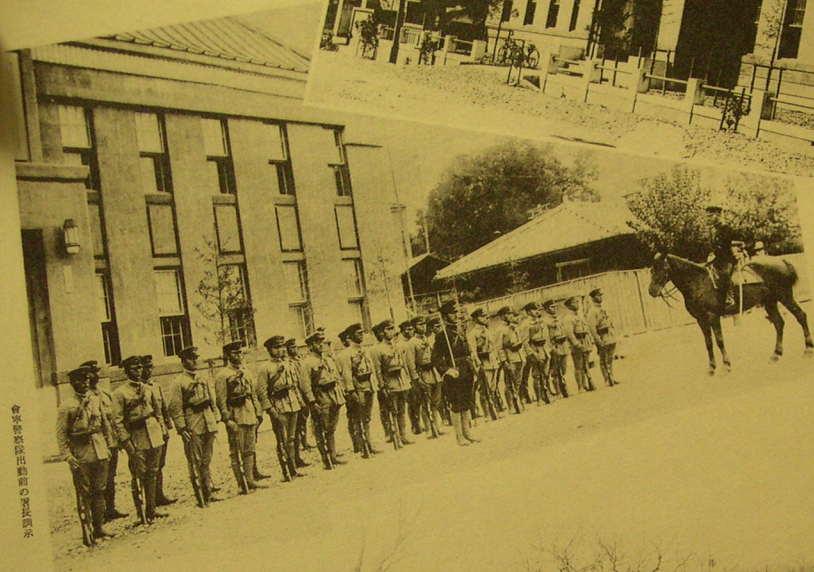


會客警察署





會 議 館 建 物



會 議 館 除 出 動 前 の 署 長 訓 示



隊 列 警 備 會 署 不 遠 道 行 上 伏 討 賊 圖



會 議 館 上 砂 路 會 議 館 第 二 警 備 署 に 行 け る 日 前 報 告



員團警自軍族家共と員所在駐口於洞寺



反置の中隊對と城區でん鉄を江蘇豆の員所在駐口於洞寺





河津の口駐在所の員を江馬江を映でん映と對國中の實況



花豐駐在所の員の入口検査問



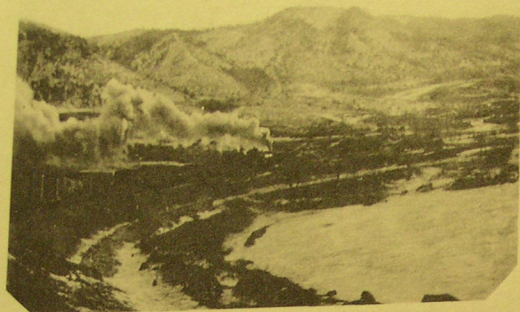
花豐駐在所

花豐駐在所の員と其の家



轉請駐在所前にて
所員と共に家族
(下飯坂警察部長殿
問の日昭和十年一月
十九日)

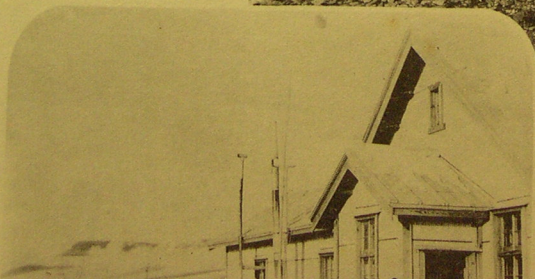




鶴浦附近の江原を
走る國鐵列車



→
新田警察官駐在所員と其の家族



防里駐在所に於て
に顕示する郵便箱

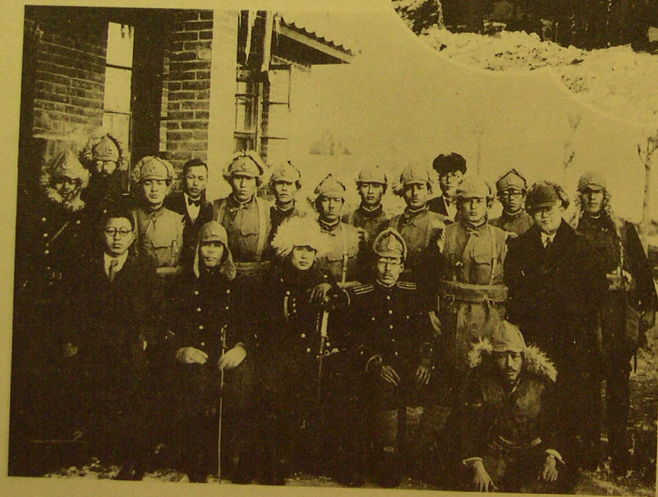
防直駐在所
と其の家敷



防直駐在所



三森駐在所員

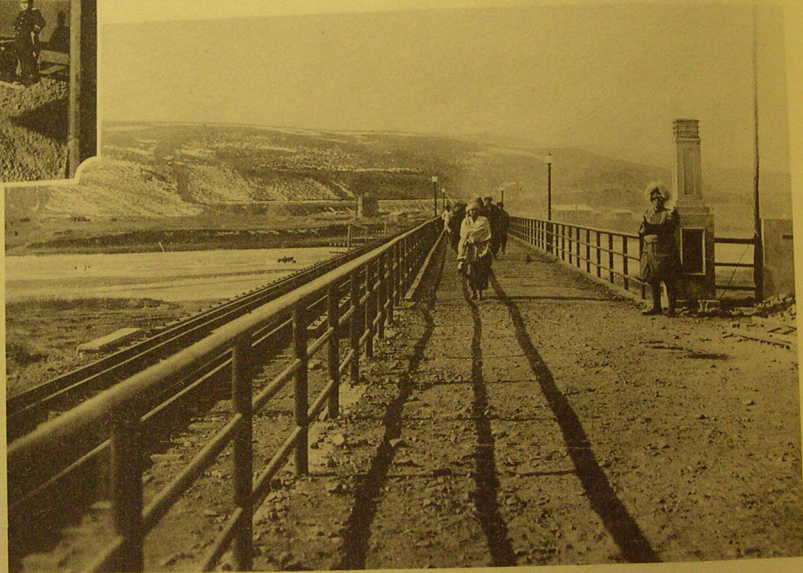




→
雪路を進む騎馬隊



↑
三峯驛に於ける駐在所
員と下級政務官長



三峯の風塵橋
畔に於ける警
備員の立哨

鐵道警備員
と其の家族



鐵道警察署



鐵道を出發する
(奥かに鐵道三所)



る。前線郵便局長一行
軍機を要す。



旅家の其と員所在駐官寮警備隊



↑
海關警備に於ける
下級警察局長

→
邊境駐在所





水口浦駐在所員と
其の家族



↑ 水口浦駐在所



下飯坂警察部長一行
雪の陣圖（向ふ）



水口浦駐在所
江岸監視所



出陽駐在所々員と其の家



特別警備隊員の検問





1
特別警備隊
歩分隊の位間



南陽から関門への国鉄橋



1
南陽警備の
下級警察
部長一行と
官民代表者



↑
特別警備隊後
歩合隊の検問



橋梁駅舎のへ門開から南



→
南陽驛頭の
下級警察
部長一行と
官民代表者

豊田駐在所員と其の家族

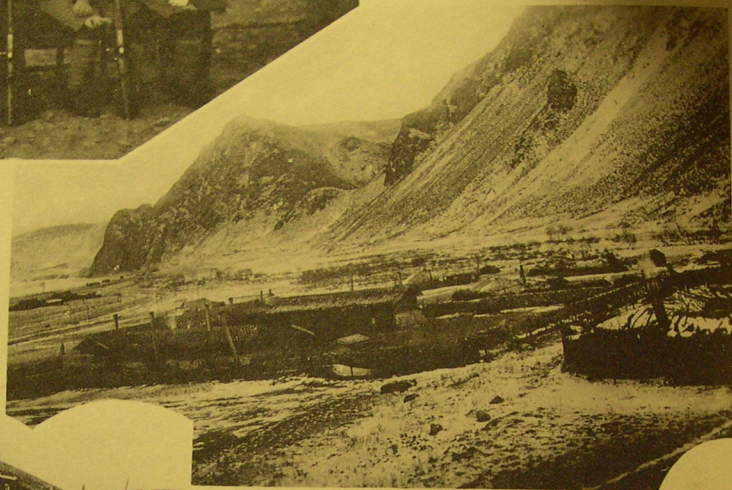


豊田駐在所員

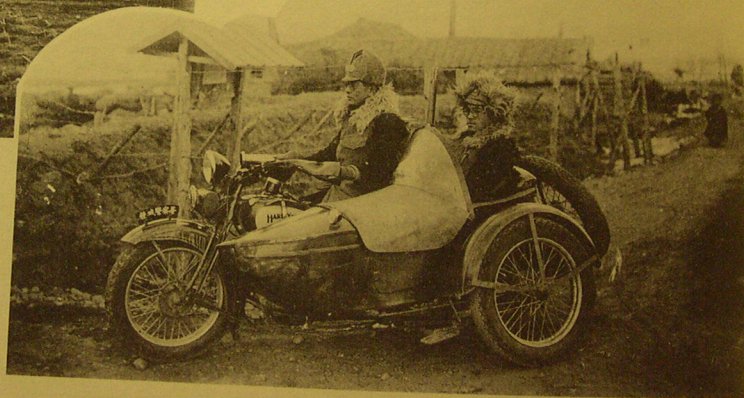


豊利駐在所





豊西に伊勢所
北緯四十二度二
分四秒の最北端
である



→
熊鷹の道標に合致する
日城野庭院のアイダカ!



世田駐在所員と兵の家族



世田駐在所全景

池田警務局長閣下
慰問の日の移城所
慰問員と兵の家族





陸城對岸清水魚子園
軍部慰勞會分會訪問
の下級慰勞部長



清水魚子園軍部
慰勞分會より
門内を望む



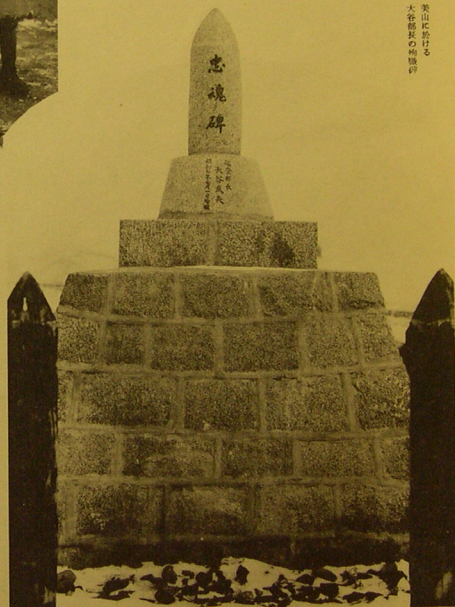
探検隊石川員
と其の家



探検隊
と其の家



寒山に於ける
大谷部長の略図



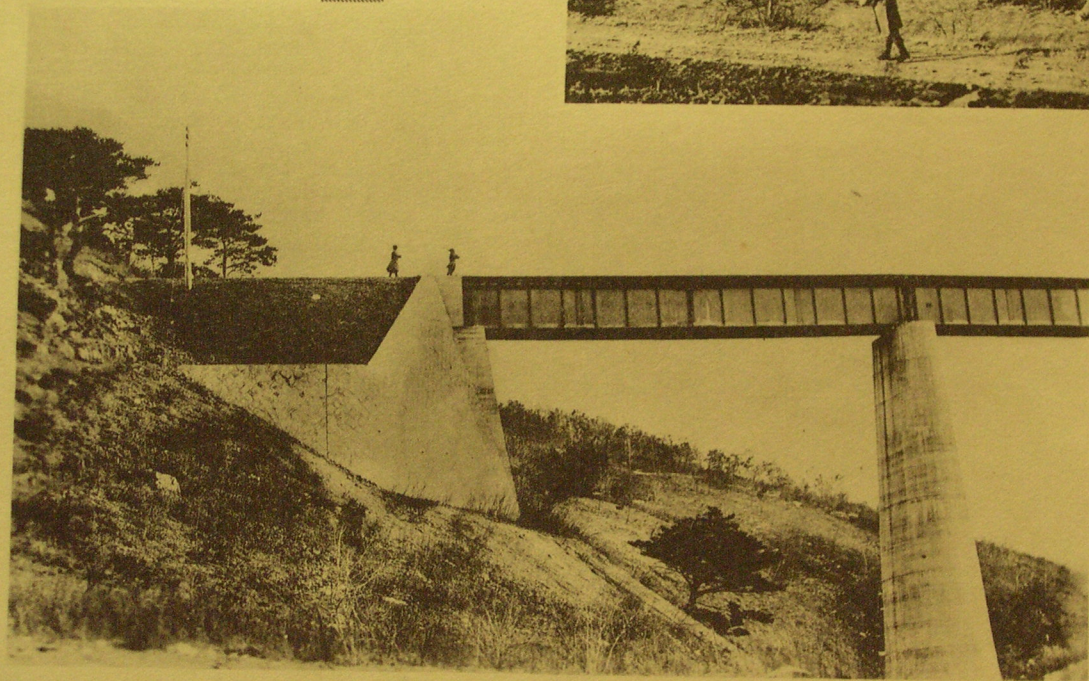
月波駐在所員
と其の家族



月波駐在所附近の
夫婦岩(右)と鐵橋(下)

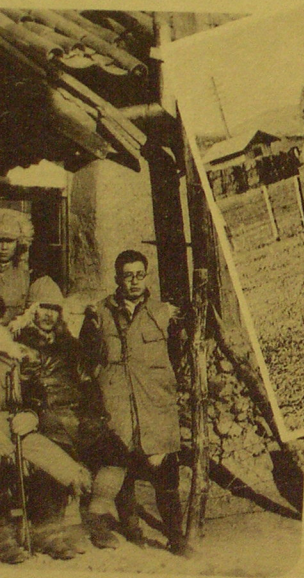


月波駐在所附近の
大崎岩(右)と鐵橋(下)
→
↓





↑ →
訓我の自警
團員訓練
(上と右)



←
中榮駐在所員
と其の家族





族家の其と員署察警源慶



柳多島附近警戒の哨



金洞檢問所に於ける見張



族家の共と目所在駐良承



望遠の岸對て隔を江滿豆と所在駐



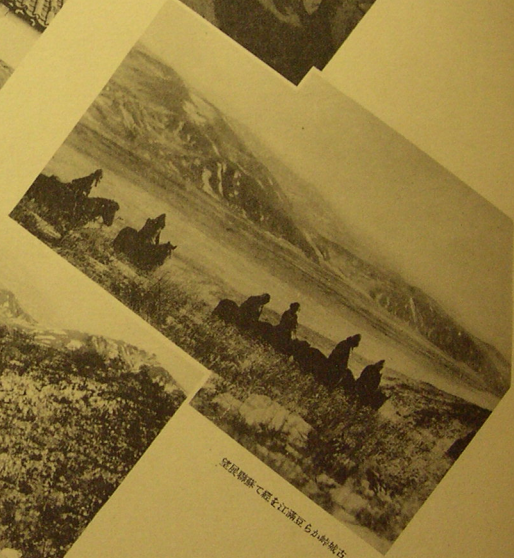
たれらせ立建に岸江常龍
碑識物長部兩金、田森

に所視監堂龍所在
哨立同共の團警自と





所在地 深田



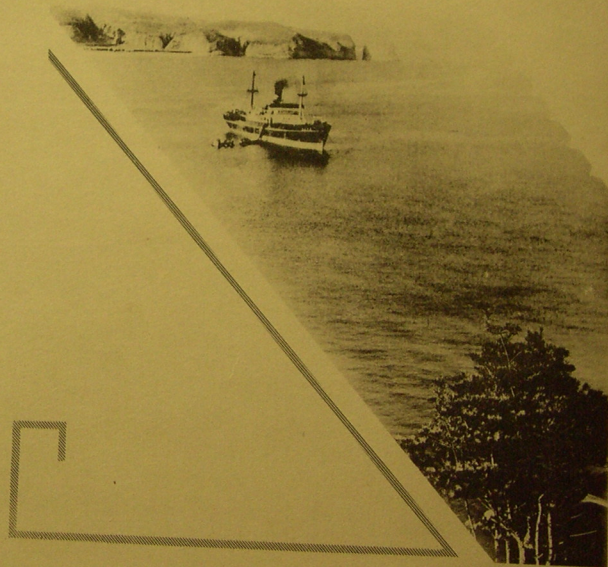
深田を経て新金山から山崎へ



深田(右) 深田と新金山の間の山崎峠
(新金山の山頂には新金山の山崎峠)



昭和八年豫防豫病中
 中基桑市
 市役所長部在記木銘たれ燈てし



青海波（咸洋港）

本寫眞帳所載の寫眞は許可なく
して複寫轉載する事を禁ず

昭和十年四月

咸鏡北道廳内

發行所

咸鏡北道警察部

大清
康熙五十二年五月十五日
朝鮮軍官李義復趙台相
差使官許傑朴道常
通官金應德金慶門

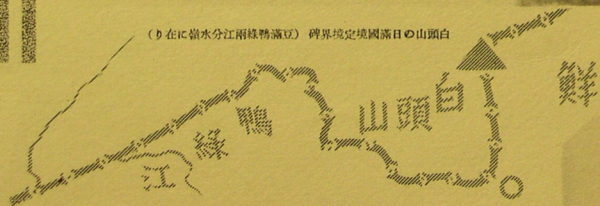
烏喇總管穆克登奉
旨查邊至此審視西爲鴨綠東
爲上門故於分水嶺上勒
石爲記

三八分

三尺三寸一分

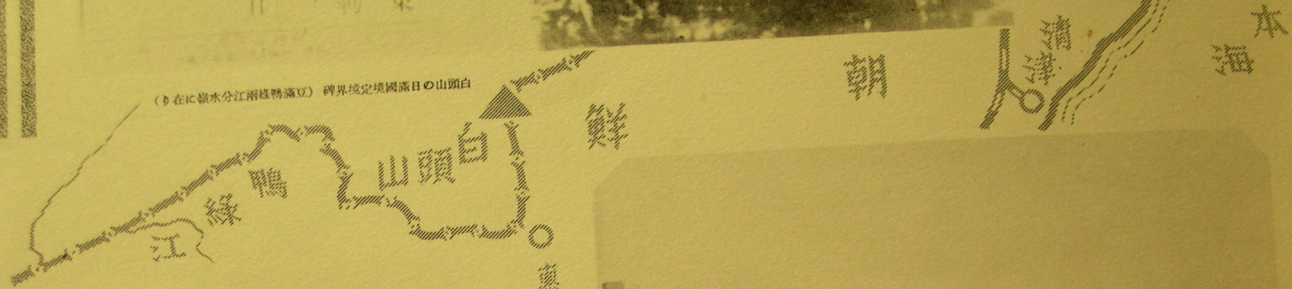


(下に在に嶺水分江兩綠鴨滿立) 碑界境史境國滿日の山頭白



惠山鎮





↑ 碑界境々國三滿蘇日



民農作耕境越るゐてし出搬く近岸江を物作耕たし獲牧

越境耕作保護警戒の實況



豆満江を渡つて越境耕作農民保護の爲満地に警戒隊

警察官家族の實彈射撃

妻も銃とり應戦の準備に
拳銃射撃の猛訓練





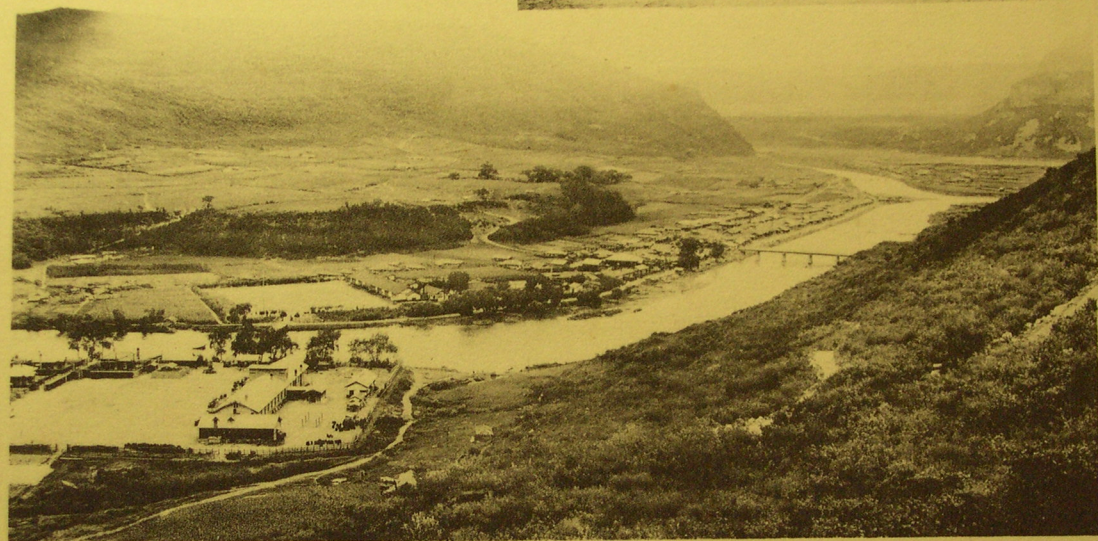
河田
合村 兩巡査部長殉職之碑

大正十二年七月三日未明馬賊約百五十名農事駐在所を襲撃した際交戦殉職した田村、川合兩巡査部長の記念碑

昭和十年二月廿七日
池田警務局長閣下並に下飯坂
警察部長一行参拜す



昭和十年二月廿七日
池田閣下國境慰問の
長を中心に農事洞駐
員と其家族（前列
り四人目池田閣下五
下飯坂部長）



三長面全景前の川は
西頭水右上の細く見
ゆるは豆満江本流其
の對岸は土城部落
←



三川駐在所★員と其家族

昭和十年四月

警備の姿

威鏡北道警察部

